

「つながり」で勝つ、その夢を叶えるために

就活情報誌
保証人版

Vol.15

Relation

淑徳大学の

インターンシップ
認定プログラムについて



INDEX

- 01 淑徳大学のインターンシップ認定プログラムについて
- 03 インターンシップ認定プログラム体験記
- 05 現在の就職活動の動向とご子息・ご息女サポートのポイント
- 07 質問コーナー

Q&A

質問コーナー

就職活動を進める学生は、何気ない一言に傷つくこともあれば、逆に励まされることもあります。ここでは、保証人の皆さまからよくある疑問をまとめましたので、サポートやアドバイスの際のご参考にしてください。

Question.1

保護者として、どのように接すればよいのでしょうか？

Answer.1

お子さまの自立を信じ、思いやりを持って見守ることが大切です。

就職活動では、自己分析や企業選び、応募書類の作成、採用試験など、初めて経験することが多く、不安や悩みを抱えやすくなります。近年は就職活動スケジュールの早期化により、2年生のうちから正課授業と並行してオープンカンパニーやインターンシップに参加する機会も増え、心身ともに負担が大きくなることが予想されます。そのような状況の中、ご家庭では、お子さまの気持ちに寄り添いながら、現状を聞く機会を持つことが大切です。本人の意思を尊重しつつ、必要に応じて適切な助言をすることで、安心して就職活動に向き合えるようサポートしてください。ただし、採用試験への同行や、受験先・就職先の決定への過度な関与は避けることが望ましいでしょう。近年では、家族間の関係が良好であるからこそ、どこまで共有すべきか、どのように相談すればよいのか迷う学生も増えています。また、家族の意向を尊重するあまり、自分の判断を優先しづらいと感じるケースも見受けられます。お子さまが自ら考え、成長していけるよう、温かく見守りながら応援していただければと思います。

Question.2

公務員を目指すためには、どのような準備が必要ですか？

Answer.2

低年次から計画的に学習し、幅広い経験を積むことが大切です。

近年、公務員試験の制度は労働人口の減少の影響を受け、多くの方が挑戦できる形態へ変化し続けています。例えば、教養試験の代わりに、民間企業の選考でよく用いられるSPI試験を選択できる自治体が増えており、今年度からは新たに「国家一般職【教養区分】」が新設され、3年生の春から受験できるようになりました。また、自治体によっては、筆記試験以上に「人物」を重視した選考を実施する傾向が強まっています。こうした変化により、公務員試験一本に絞らず、民間企業との併願も視野に入れた進路選択が可能になっています。そのため、お子さまが少しでも公務員に興味を持っているようであれば、低年次のうちから計画的に教養試験やSPI試験の対策を進めておくことが重要です。また、公務員試験に限らず、履歴書や面接では「学生時代に頑張ったこと」を問われることが多くあります。そのため、アルバイトやサークル活動に加え、企業や自治体が開催するイベントに参加するなど、多様な経験を積むことが将来の選択肢を広げることに繋がります。試験対策については、学内で公務員対策講座(有料)を開催していますので、ぜひ活用しながら計画的に準備を進めていきましょう。

Question.3

教員採用試験に受からなかった場合、どのような進路の選択肢がありますか？

Answer.3

本学の場合は、講師登録を行う学生が多いです。

正規採用とならなかった場合、進路としては、希望する地域を管轄する教育事務所で講師登録を行う方法と、一般企業等への就職に切り替える選択肢が考えられます。本学では、ほとんどの学生が講師登録を選択します。講師登録を行うと、育児休業等で代わりの先生が必要な学校から随時連絡があります。学校長との面接を経て、講師として活躍することができます。なお、都道府県ごとに採用条件が異なるため、応募前に確認が必要です。また、一般企業等への就職に切り替える場合は、キャリア支援室で求人紹介や就職活動のサポートを受けられますので、お気軽にご相談ください。

保証人懇談会のお知らせ

6月14日(土)

千葉キャリア支援室では、進路に関する個別相談のほか、学科別の就職実績、最新の就職活動の動向や、公務員試験に関する説明を予定しています。(詳細やお申込みは、4月下旬に大学からお送りするご案内にてご確認ください。)

各学科の参加者に聞きました！

総合福祉学部
社会福祉学科 3年
鈴木 翼さん

総合福祉学部
教育福祉学科 3年
山本 朋果さん

総合福祉学部
実践心理学科 3年
立石 葵さん

コミュニティ政策学部
コミュニティ政策学科 3年
福島 凌兵さん

就職活動を意識した時期・理由

2年生の秋
インターンシップ先を探し始めたため。

キャリア支援室を利用し始めたきっかけ

自分だけで就職活動をするに限界を感じ、カウンセラーさんを頼りました。

認定プログラムに申し込んだ背景・想い

インターンシップで自分の可能性を広げつつ、キャリア支援室からの客観的なフィードバックで自分を見つめ直せることに魅力を感じました。

2年生の夏
教員志望か一般就職かに悩み始めたため。

進路変更について悩んでいたときに、先輩がキャリア支援室について教えてくれました。

先輩に勧められて悩んでいたときに、昨年の報告書に載っていた『後輩へのメッセージ』が心に響き、参加する勇気をもらいました。

3年生の春
大学院進学だけでなく、一般就職も考え始めたため。

具体的に進路を決めるために、まずは情報収集!と思いキャリア支援室に行きました。

進路について悩んでいる中で、この機会が就職活動の弾みになると考え、安易な道を選ばず努力しようと心に決めました。

入学時から
公務員を志望していたため。

3年生になり、筆記試験対策以外の人物試験対策ができていないことに焦り、利用しました。

ひとりでは偏りがちな就職活動全般の対策を受けることができ、その中で人物試験対策に役立つプログラムに惹かれました。

インターンシップ認定プログラムを経て得られたもの

——認定プログラムで印象に残った講座や学びはありますか？
鈴木 自己分析講座で、過去の経験をワークシートに書き出しながら、

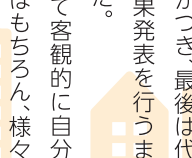


福島 公務員を志望していたことから千葉県インターンシップに申し込み、その中でもゼミの研究テーマに合った千葉県消費者センターを希望しました。

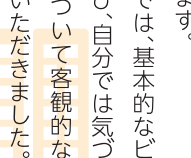


立石 やりたいことがまだ明確でなかったため、職業診断の結果やこれまでのカウンセリングを踏まえ、医療事務のインターンシップを勧めていただきました。

福島 面談を通して客観的に自分を理解できたことはもちろん、様々な講座で他の学生とグループワークを行う中で、一人では気づけなかった自分の強みや課題に気づけたことは、大きな収穫だったと感じています。



立石 プログラムを通じて、グループディスカッションや発表の機会が多くなりました。もともと自分の意見を伝えたり、人前で話すことが苦手でしたが、経験を積むうちに自信がつき、最後は代表の一人として成果発表を行うまでに成長できました。



山本 マナー講座では、基本的なビジネスマナーを学び、自分では気づきにくい改善点について客観的なフィードバックをいただきました。それにより、社会人としての基礎力が向上し、マナーに自信を持つて実習に臨むことができました。

——インターンシップ先はどのよう

自分の将来像をイメージする機会がありました。ひとりではなく、他の学生とグループで進めることで、話す中で自然と気持ちが整理され、自己分析が深まったと感じています。



インターンシップ 認定プログラムについて

千葉キャリア支援室では、主に3年生を対象に「インターンシップ・仕事体験認定プログラム」を開催しています。このページでは、プログラムの内容紹介と、参加した学生にプログラムの魅力を語っていただきました。

「インターンシップ・仕事体験認定プログラム」とは

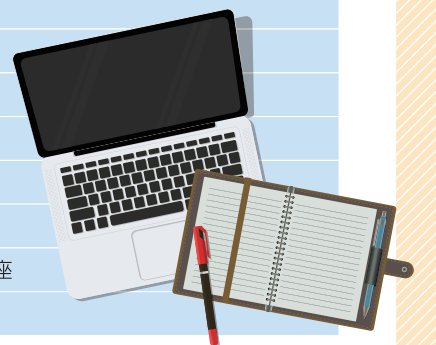
自らの「キャリア」に向けて 一歩踏み出す実践型プログラム

本学では、一人ひとりの職業観の醸成や、共生社会を支える人材育成を目的に、学生のキャリア形成支援に取り組んでいます。その一環として、自身のキャリアについて主体的に考える機会となる就業体験やインターンシップへの参加を推進しています。「インターンシップ・仕事体験認定プログラム」は、一連の事前・事後学習や就業体験先の紹介などをパッケージ化した千葉キャリア支援室独自のプログラムです。

本プログラムに参加する学生は、大学が責任を持って選出し、コミュニケーション講座、マナー講座などの事前学習をおこなった上で学生それぞれの参加目的に応じた就業体験先へ送り出します。また、実習後には振り返り、成果発表会などの事後学習をおこない、現場での学びを深め、その先の就職活動に繋げていけるようサポートしています。

2024年度開催 インターンシップ認定プログラムスケジュール

ガイダンス	開催月	内 容
	4月	インターンシップガイダンス
事前学習	開催月	内 容
	5月	認定プログラムオリエンテーション/履歴書の書き方 強み×価値観を見つける!自己分析講座
		インターンシップマナー講座①
	6月	ロジカル・コミュニケーション講座 自己PR作成講座 グループディスカッション体験会
		インターンシップマナー講座②
		インターンシップ参加の心構え・準備講座
	7月	直前オリエンテーション
事後学習	開催月	内 容
	9月	インターンシップ振り返り学習
	11月	インターンシップ成果発表会・情報交流会



インターンシップ認定プログラムについて

社会福祉法人星光会

様々な事情により、異なる年齢層の子どもたちが生活を共にする児童養護施設で、家事全般や勉強・遊びの支援、トラブルの仲裁など、多岐にわたる業務を経験しました。実習を通じて、年齢に応じた適切な接し方や、状況に応じた柔軟な判断・対応の難しさも感じましたが、子どもたちの安全な生活を支えたいという自分の思いを改めて確認することができました。

BEFORE

■慣れたはずの子どもとの関わり
小学校でのボランティア経験から、子どもとの関わりにはある程度慣れているつもりでした。そのため、これまでの経験を活かし、子どもを手助けしたり見守ったりしながら、日々の生活の支援ができと思っていた。

AFTER

■言葉と距離感、学びの中で
児童養護施設では、幼児や小学生だけでなく、中学生や高校生まで幅広い年齢の子どもたちが生活を共にしています。中でも自分と年齢の近い中高生に対してはどのように関わったらよいかわからない、コミュニケーションの取り方や距離感に悩む場面がありました。年齢に応じた対応や言葉選びをしている職員さんの関わり方は、とても勉強になりました。

ACTION

■伝える力と判断力を養う

インターンシップに参加したことで、児童養護施設で働きたいという気持ちが大きくなりました。今後は、子どもたちの年齢や理解度に合わせたコミュニケーションが取れるよう、語彙力を高め、相手に伝わりやすい表現を意識したいと思っています。また、状況判断力を養うために、日頃から周囲の変化に気を配り、柔軟な対応ができるよう、これからの生活の中で自分自身を成長させていきたいです。



PROFILE
総合福祉学部
教育福祉学科 3年
山本 朋果さん

千葉県消費者センター

千葉県内の消費者から寄せられる契約トラブル等の相談対応を行っている、千葉県消費者センターのインターンシップに参加しました。相談場面の見学や消費者相談の模擬体験、また消費者教育の企画・発表を通じて、消費者行政について学びました。相談者の話を引き出す質問力や、知識を実践的に活用するために必要な基礎力に気づき、自身の成長に繋がる経験となりました。

BEFORE

■未来へ繋がる日々の学び

ゼミでは消費者教育について学んでおり、これまでも基礎的な知識を積み重ねてきました。また、ビジネスマナーについても学内講座に参加し、その習得に力を入れてきました。

AFTER

■知識の先に広がる、新しい力

実際の相談現場では、消費者教育に関する知識だけではなく、相談者の話の内容に対して、さらに掘り下げて理解を深めるための質問力や、的確に情報を引き出す力の重要性を痛感しました。また、ビジネスマナーについても、単なる知識としてではなく、実際に実践できるよう経験を積むことの大切さを強く感じました。

ACTION

■意識の変化が生む力、実践の一步

親身に相談対応を行う職員の方々を目の当たりにし、人の役に立てる公務員の仕事への思いが強くなりました。また今後は、学生生活を通じて「質問力・聞き出し力」をさらに高めていきたいと考えています。そのためにはどんな質問をするべきか、どの部分を深掘りすべきかを意識的に整理し、それを相手にわかりやすく伝える力を養っていきたいです。また、ビジネスマナーについても、単に知識として覚えるだけでなく、実際の場面で役立てられるように、日常から意識して実践し続けることを大切にしていきたいです。



PROFILE
コミュニティ政策学部
コミュニティ政策学科 3年
福島 凌兵さん

学生インタビュー インターンシップ認定プログラム体験記

BEFORE

AFTER

ACTION

株式会社スリーエス

企業向けのビジネスサポートや、生活者の資産・相続など暮らしにかかわるライフサポートを行う総合コンサルティング会社でのインターンシップに参加しました。コンサルティングの模擬体験を通じて、クライアントとの信頼関係を築く力や問題解決能力、さらに顧客の潜在的な要望を見抜く重要性に気づきました。コンサルティング業務にとどまらず、さまざまな業界で役立つスキルを習得でき、非常に有意義な経験でした。

BEFORE

■気づかぬうちに狭まった視野の中で
営業の仕事に関心を持っていたため、別の会社で長期のインターンシップに参加していました。営業の仕事に面白みを感じる一方で、他の業界や職種について考える機会が少なくなり、結果的に自分の進むべき方向や適性に対する理解が曖昧になっていました。

AFTER

■触れなかった世界で広がった新たな視点と学び
コンサルティングという業務を通して、今まで触れていなかった業界や職種が多くあることに気づき、仕事への興味の幅や自分の価値観を広げることができました。またコンサルティング体験を通じて、粘り強くアポイントを取ることや、お客様から信頼される提案をするためには、十分な知識と、ニーズに気づく細やかな気遣いが大切であることを学びました。

ACTION

■期待に応える力を育む道

お客様から得た信頼を次に繋げるためには、選んでくれた人々に対して責任を持って努力し続けることが大切です。今後、幅広い視野で業界や職種を見ていく中で、どの業種においても自分を選んできたことに対する「責任」を意識する機会があると思います。その期待に応えられるよう、学び続けることで知識を増やし、相手のニーズを捉える柔軟な思考力を磨いていきたいと考えています。



PROFILE
総合福祉学部
社会福祉学科 3年
鈴木 翼さん

株式会社アインホールディングス

調剤薬局やコスメ&ドラッグストアの経営など、医療関連事業を展開するアインホールディングスのインターンシップに参加しました。店舗見学や先輩社員との交流を通じ、医療事務として患者さまのニーズを把握し、期待以上のサービスを提供するために求められるスキルや医療サービスの在り方について理解を深めました。医療事務には傾聴力や適切な提案が不可欠であることを実感し、今後伸ばすべきスキルを発見できたことは、貴重な学びとなりました。

BEFORE

■自分に合う道を探して

自分にとって本当にやりたいことや、最適な仕事は何かをずっと模索していました。考えを巡らせてはみるものの、結局のところ目指すべき目標が見えてこず、方向性を定めることができませんでした。

AFTER

■適性に気づき、次の一歩へ

医療事務では、患者さまのニーズを適切に把握し、期待以上のサービスを提供することの重要性を学びました。傾聴力や協調性、想像力を活かし、チームで最適な医療環境を提供する意義を感じることができました。また、患者さまに寄り添うきめ細やかな対応が自分にとても合っていると実感しました。

ACTION

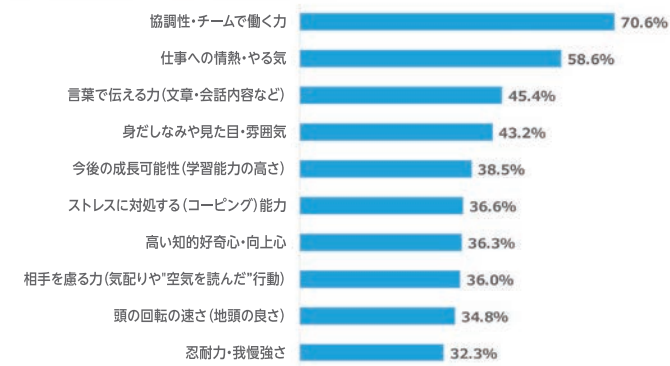
■ニーズを捉え、最適な提案ができる自分へ

これからの学生生活では、周りの意見を大切にしながらも、自分の考えを意欲的に伝え、伝え方や提案の仕方を学んでいきたいです。経験を重ねる中で、少しずつ提案力に自信を持ち、相手のニーズに合った最適な対応ができるようになりたいと思っています。また、自分の適性を踏まえながら、今後の進路についても考えていきたいです。



PROFILE
総合福祉学部
実践心理学科 3年
立石 葵さん

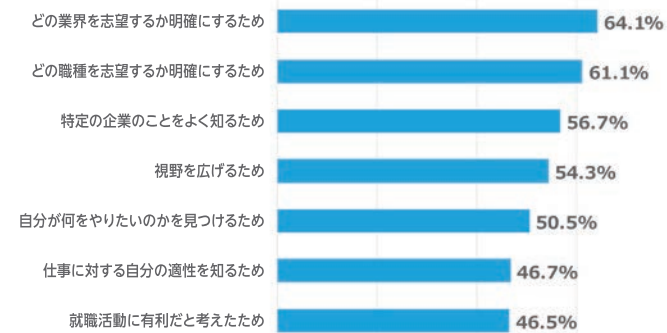
図④
新卒採用における学生の「優秀さ」の要素 n=2,274



出典：マイナビ2025年卒企業新卒採用活動調査(2024年7月リリース)
より一部抜粋

図③

インターンシップ&キャリアに参加する目的 n=3,683



出典：マイナビ26年卒大学生インターンシップ・就職活動準備実態調査(6月)
(2024年7月リリース)より一部抜粋

こんにちは。株式会社マイナビの関と申します。

「マイナビ」は就職情報サイトを運営しており、現在の就職活動では多くの学生にご利用を頂いております。私は淑徳大学千葉キャンパスを担当しており、貴学生の就職活動のサポートを行っています。ここでは、学生向けに普段お話ししている内容を織り交ぜながら、全体的な現在就職情報をお伝えしますので、お子様が就活を進めるにあたっての参考にしていただければ幸いです。



株式会社 マイナビ
就職情報事業本部 大学広報統括本部
千葉キャリアサポート課 **関 智弘さん**

現在の 就職活動の動向と ご子息・ご息女サポート のポイント



2026年3月卒業学生 就職活動スケジュールの特徴

現在の就職活動(以下、就活)スケジュールについて、政府の主導により、「3月広報活動開始、6月に採用選考活動開始が一般的なスケジュールとなっており、3月1日に採用情報が解禁され、各企業でエントリーの受付が始まります。それから3か月後の6月1日より面接等の選考試験が実施され、順次内定が決まっていくというのが基本の流れです(※図①)。業界や企業によっては前倒しのスケジュールで選考等が進められるケースもありますが、3年生の春休み終盤から夏、あるいは秋にかけてが、就活の「本番」に該当する時期だと言えます。では、「採用情報が解禁される3月1日」になつてから就職について考え始めればいいのか」というと、それでは少し遅いかもれません。3月以降は企業へのエントリーシート提出、企業説明会への参加、選考対策などで多忙になります。そのため、そこから慌てて準備に乗り出しても、理想とする職場にたどり着くのは難しくなってしまうでしょう。4月以降は新学期もはじまり、学校生活との両立も必要となり、より忙しい日々が待ち受けています。こうした状況に陥らない為に、3月を迎える前の期間を有効活用することが欠かせません。低学年のうちから自己分析や後述するインターンシップ&キャリアへ参加し業界研究を行うといった準備を進めながら、最終学年を迎える前の3年生の2月までに「準備は整った!」と言える状態に整えていくのが理想です。納得した進路実現のカギは、本番までの準備期間が握っています。

キャリア形成のための
インターンシップ参加

現在の就職市場において注目が集まっている

企業が求める人材とは

現在は変化の激しい時代であり、企業は持続するために「優秀な人材を獲得したい」と考えています。優秀な人材と聞くと、高いスキルが求められると思いますが、弊社マイナビが実施している企業調査のデータによると、新卒採用における学生の「優秀さ」の要素1位が「協調性・チームではたらく力」、2位は「仕事への情熱・やる気」となっており、どちらも大学生生活の取り組み方によって身につく能力です(※図④)。

④ チームで物事を進めることは、ゼミやサークル、またはアルバイト等でも経験できることで、ですから、「どんな役割を担うのか」を自分なりに考え、真剣に取り組んでいくことが大切です。また、大学生生活での取り組みは多岐にわたりますが、何か一つでも情熱をもって取り組んでいることがあると、選考試験時のアピール材料にすることができま。さらに、「社会人になつてからも同じように仕事に取り組むことができる」と企業の方に感じて頂くことにもつながります。採用選考では「人間性」を測るため、「自己PR」「ガクチカ(学生時代力をいれたこと)」「志望動機」を中心に質問をされます。このような質問に対して、明確に自分を表現する必要がありますので、「自分がどう生きてきたか」「学生生活をどう過ごしてきたか」の振り返りが必要となります。日常生活でしっかりと自分の意見を持ち、目的意識を持って行動することを習慣づけることで、就職活動の準備に自然と繋がってくるかと思えます。しかし、学生調査では就職活動を振り返って、もっと十分にすればよかったと思うことの中で、「自己分析が1位となっています(※図⑤)。そのため、弊社が学生を指導する際には「3年生、4年生になった段階で自分の言葉で伝えられるようにしよう」とメッセージを送っております。学生生活の中で様々な経験をすることにより自

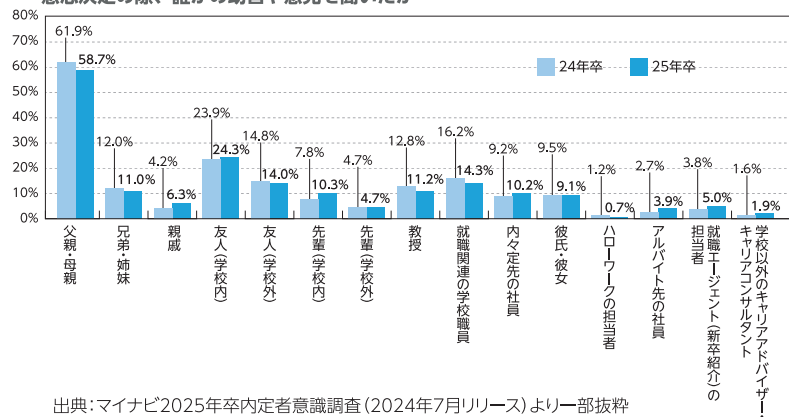
るのがインターンシップです。学生にとって賢
の高い経験となるように、2022年6月にイ
ンターンシップが新たに定義付けられ、
2023年夏から運用が始まるなど大きな変
化がありました(※図②)。従来のインター
ンシップでは、「取得した学生情報を企業の広報
活動や採用選考活動に使用してはならない」と
されてきましたが、インターンシップとして位
置づけられる「タイプ3」と「タイプ4」に関し
ては、定められた情報の開示要件を満たした場
合、企業側は取得した学生情報を採用活動開始
以降から活用できるようになりました。企業の
視点に立つと、採用活動が活発化しており、売
り手市場が続いている状況ですから、インター
ンシップ&キャリアを通じて、早い段階から多
様な学生に興味を持ってもらえるよう、接点を
つくる姿勢が強まっています。今後さらに多
くの企業が開催を検討し、提供されるプログ
ラムも多様化していくことが予想されます。で
は、学生にとってのインターンシップ&キャ
リアの位置づけはどのようになっているので
しょうか。弊社調査資料によりますと、参加す
る目的として「この業界を志望するか明確にす
るため」が最多で、次いで「どの職種を志望する
か明確にするため」となっています。前述した
参加時の情報を採用選考に利用できるように
なったこともあり、インターンシップ期間から
就職活動を意識する傾向が高まったと考えら
れます。実際に、「就職活動に有利だと考えたた
め」という回答も半数近くありました(※図
③)。とはいえ、それが一番の目的というわけ
ではなく、業界研究や自己理解をはじめとした
キャリア形成を目的として参加している学生
が多いことが調査結果から伺えます。

分の得意・不得意が理解できると思いますので、学内外での活動から多くのことを学び、自己理解を深めて頂きたいと思います。

ご家族に求められるご支援

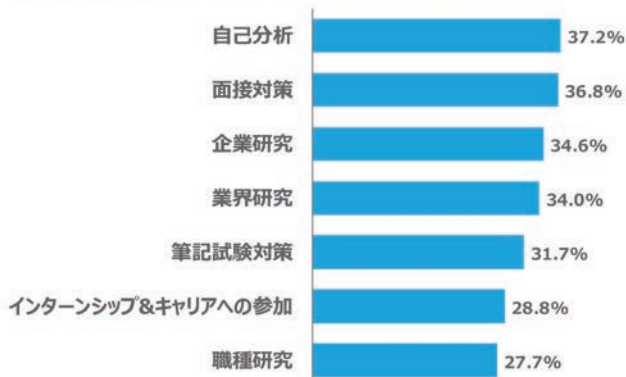
最後に、「ご家族の皆様」に求められる「ご支援」に関してお話をさせていただきます。学生の就職活動において「ご家族の皆様」の影響力が大きいことがデータで現れています（※図⑥）。現在、多くの学生が「ご家族の意見を参考に進路を考えている」という結果を前向きに捉え、特に「社会人とは何か」ということについて、「ご家族で話す機会をもっていたきたい」と思います。動くことや自立して生計を立てることに対し、漠然とした理解しかない学生も少なくありません。そのため、仕事を選ぶ際にアルバイトやボランティアの延長のような感覚で企業を選ぶケースも見られます。「人の役に立ちたい」「社会貢献をしたい」などの個人の考えは尊重しつつ、より自分に合った働き方を選択できるよう、「ご家族の皆様から社会の仕組みや仕事の意義について伝えていただくことで、視野が広がり、将来の選択肢がより明確になることでしょう。また、精神的・経済的なサポートも大切な役割となります。就職活動が思うように進まないこともありませんが、その際には否定せず、「ご本人の思いに耳を傾けていただくことが大切です。さらに、就職活動には交通費やスーツ代などさまざまな費用がかかりますので、ご理解のうえ、必要に応じた支援をお願いできればと思います。就職活動中の学生にとつて、「ご家族の皆様」の支えは大きな力になります。悩んでいる様子を見かけた際には、ぜひ温かく相談に乗っていただければ幸いです。

意思決定の際、誰かの助言や意見を聞いたか



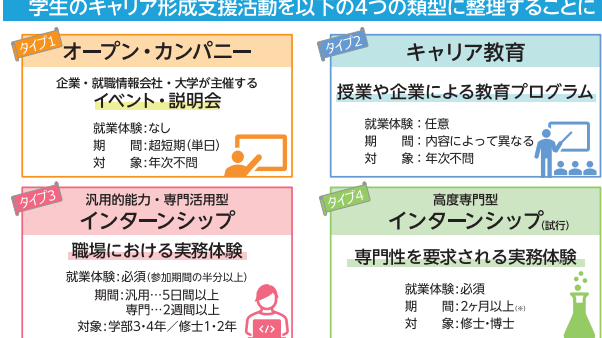
出典：マイナビ2025年卒内定者意識調査(2024年7月リリース)より一部抜粋

就職活動を振り返って、もっと十分にすればよかったと思うこと $n=2,997$



出典：マイナビ2025年卒内定者意識調査(2024年7月リリース)より一部抜粋

図② キャリア形状支援活動の4種類



※高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(仮称)の
期間(所要日数)は現状明示されていない

出典：「採用と大学教育の未来に関する産学協議会 2021年度報告書」
(採用と大学教育の未来に関する産学協議会) (2022年4月)をもとに
マイナビにて作成

図① 2026年卒の就活スケジュール

